リサーチ＆ソリューション第１部　佐古佳史

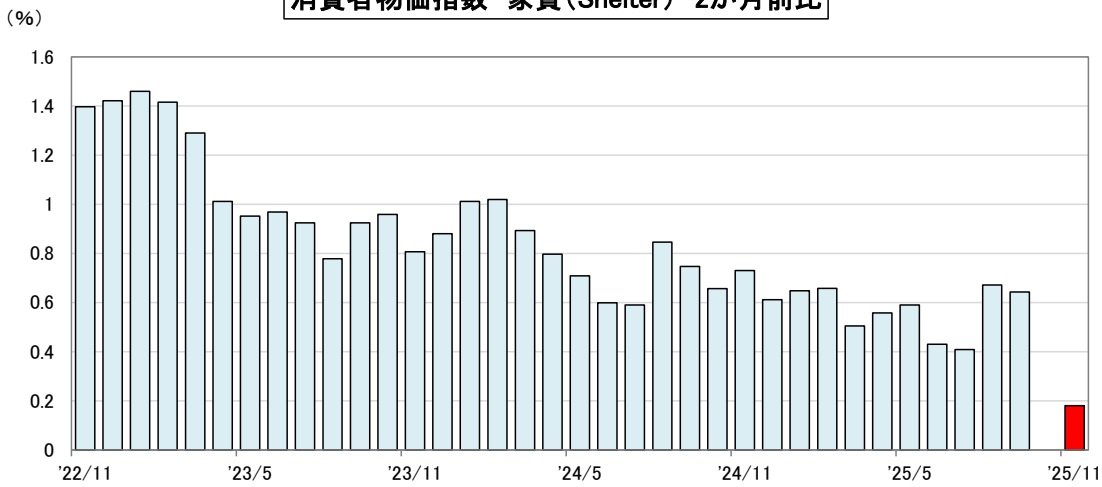
（米国）信ぴょう性に欠ける 11 月 CPI

11 月のインフレ関連統計を確認すると、消費者物価指数（CPI、18 日公表）は、総合が前年比 2.7%、食料とエネルギーを除くコアは同 2.6%となった。データがある 9 月分はいずれも同 3.0%だったため、数値から判断するとインフレ率は 10、11 月にかけて大幅に鈍化したということになる。CPI と PCE デフレーターの違いを考慮すると、ほぼ 2%物価目標が達成できたといえるかもしれない。

しかしながら、10 月 CPI はほとんどのデータが欠損値であることや、11 月分のデータ収集期間が短かったこと、11 月分の家賃や帰属家賃（OER）の上昇率がそれまでのトレンドと比較して低すぎることなどの様々な要因から、11 月 CPI の信ぴょう性は低いと思われる。CPI に占める家賃のウェイトが大きいこともあり、実体としては低めにバイアスがかかっているのではないだろうか。

前年比での影響は 1 年間続くため、インフレ率の動向を正確に把握するには、12 月分以降のデータを前月比で評価することとなる。

消費者物価指数　家賃（Shelter）　2か月前比



（資料）BLS、FRED　（注）25年10月は政府機関閉鎖の影響でデータなし。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます　https://www.nochuri.co.jp/